



雪  
国  
か  
ら  
の  
便  
り

榊 原 武

一寸先も見えないような冬が東北には幾日もつづきます。こんな日は保母達がたれさんはお休みしないでくるか知らず等話合いながら昇降口で良い子たちの登園を待つのです。

真白になって赤いほっぺたでとびこんでくる。「先生おはよう」うれしくなり。おもわずほほずりする。お家でお母さんとおこたにあたたまって居たいでように、好ちゃんは得意気に長靴をふみしめふみしめ元気な姿をあらわす手袋につつまれてる小さい手はかじかんで氷のようにつめたい。好ちゃんのお母さんは忸きに出るのです。目にいっぱい涙を出してくる子供。二、三人かたまってくる元気な男の子。たびもはかない子。冬になると先生方の生活指導はいそがしい。マントの取り方かけ方長靴のあげ方と。去年はしもやけにならないようにと温いクレゾール液で先生方が洗ってやったらほんとうに手のつけられない程こわれた子供は居なかつた。今年も早い程始めなければと語る。白く棒鱈のようになったマント、オーバー等ストープで乾すのも朝の仕事です。「先生長靴に雪入ったから乾して」と来る子供も居る。「先生今日は天気良いから雪合戦しましょう」とせがむ。風の子、雪の子、先生方がまけてお室にかけこむ。

「先生今日はすべり坂つくりましょう」とせがむのは女の子達。一生懸命冷い手にハアハア息をかけかけ作つたのも翌日になると、大きい学校の生徒達がこわしてくる。可哀想なのでだまって見てる二、三人の女の子が走ってくる「先生タタ昨日作つたすべり坂こわれたけ」と一大事でも見つけたように我先きにとつげるのです。この子たち大きくなっ

て学校に行ってもこんないたづらはしないでねとしんみりと願うのです。私どもの保育所では分担をきめて送り迎えしなければならぬ日が多い。雪国でなければ味わえないよろこびとあそび。子供達の天国です。終戦前までは三月十日の陸軍記念日にはお城を作って旗取り競争をしたものでしたが。

今日は寒いからストーブの側にお椅子を持ってお話を致しましょうね。人形芝居も紙芝居も家庭的になってしまふ。

外遊びの出来ない日は、先生「猫ねずみ」仕様とか走り競走とかと、ちっとして居られない子供達は保姆達をさそってくれるのです。

どんな吹雪でも一日も休まずくる年長組の子供達は「お家に居るより面白いもの」と可愛いいことを言ってくれます。此の冬こそもっとも大切な躰の時期です。又ストーブにあたりながら一人一人しんみりとお話出来るのです子供と親しみ、家庭の事もうかがえるのです。

カルタ遊びも大事なお遊びの一つです、小さい身体をのり出して取り合ひ様子を見て居ますと恐ろしいような楽しい感じがします。只一介の保姆であるとはいえ自分の保育の手一本がこの子供達をどんなに大きくするものかを考える時、冷たさからばかりでないつよくつよく引きしめられるものを感じるのです。ここ山形県米どころ庄内には保育所二ヶ所、幼稚園六施設もあります。これを一緒にした庄内保育連合会が組織され毎年総会、保姆研究会、中央でならった技術の伝達講習、公開保育などを行って研修につとめているがいつも百余の会員が参集する。来年度は各施設がそれぞれテーマをもって研究その発表会を是非もとうと張りきっています。

それにつけても経済の裏づけのさびしいことに一抹の不安があります。慾は数々あるのだが日本はなぜこんななんだろうとなげくこともあります。しかし私共が愛しても愛してもつきないはずの祖国日本をこの愛する子どもたちによって、太いよい日本にもがたと希望をつよくつよくかけたいのです。

(庄内地区保育連合会長・鶴岡市第五小学校長・第五小学校附属保育園長)